

自治振興協議会連合会だより

Discussion for a richer life

豊かな暮らしのための話し合いの場が「自治振」です



福島市自治振興協議会連合会
会長 吾妻雄二

安全に安心して生活できる環境をつくり、より地域住民が住みよいまちをつくるため、長年にわたり、行政と連携し、まちづくりの両輪となって、活動を続けてきました。

日々の暮らしの中で感じる地域の課題など、住民の声をしっかり聴いて行政へと届け、一体となって解決策を協議していくことが、私たちの大切な役割です。

新たに就任した馬場新市長のもと、行政と住民が手をたずさえて福島市のまちづくりを進めたいと考えています。明るく楽しく元気よく、地域、そして福島市の未来をつくっていきましょう。

P02 | 自治振とともに進めるまちづくり
P03 | 地域の課題を話し合いで解決へ
P04 | 令和7年度の自治振興協議会

P06 | 福島市自治振興協議会連合会の活動
P07 | 地区会長あいさつ、地区会長紹介
P08 | 地区じちしん紹介

本紙は福島市
ホームページからも
ご覧になれますので、
ご覧ください。





福島市長 馬場雄基

自治振とともに進めるまちづくり

—新市長に聞く これからの市政ビジョン—

昨年12月に福島市長となられた馬場市長に、目指すまちづくりの姿や、どのように市政を運営していくのかについて、お話を伺いました。

将来ビジョンは“次世代文教都市”

私がこれから目指す新しいまちづくりは次世代文教都市です。

すべての子どもたちを笑顔にすることができれば、まちのみんなが笑顔になる、人づくりから始まる豊かな経済都市を目指します。

未来を切り拓くには、果敢に挑むことが必要であり、それには人が安心できる環境が不可欠です。

人口減少、物価高騰、災害リスクなど、多くの問題に対応しながら、安全な社会をつくり、安心して住み集い、まちに挑戦の文化が根付いて経済を起す。その積み重ねが未来を拓き、持続可能な将来の繁栄につながる。「人づくり、まちづくり、未来づくり」の循環が、私が目指す次世代文教都市です。

市民目線の新しいまちづくり

次世代文教都市の実現に向け、二つの取組を進めています。

一つ目は、「データ行政の確立」です。幅広い分野の推移等を可視化したデータブックを完成させ、市民と本市の実態を共有しながら、透明性の高い確かな政策につなげます。

二つ目は、「未来戦略本部」の設置です。市民との対話集会等を通じて、市民の声をお聞きしながら、市民参加型のまちづくりを進めます。

客観的根拠で政策判断を行う「データ行政の確立」と、市民と共に未来を描く「未来戦略本部」により、市民目線の新しいまちづくりを進めます。

自治振興協議会との連携

まちづくりの実現には、市民の皆さまと行政が問題点や課題を共有し、連携して取り組むことが大切です。

自治振興協議会は、地域の住民福祉や安全安心の向上のため、地域の問題を行政へ届け、課題解決に向け一体となり協議を行うなど、本市のまちづくりを支える大きな力であり、皆さまとの議論を大切にしたいと思います。

新たに設ける公開型の対話集会は、「私の声は届くのか」という市民の不安を解消するため、世代や立場を問わず市民が意見を言える場、市は多様な意見をお聴きする場を想定しています。

対話集会で市に届いた市民の声を自治振興協議会の皆さまとも共有し、議論や連携につなげていくなど、安心して住み続けられるまちづくりを目指していきたいと思っています。

—ともに前へ—

私が市政を担う上で何より大切にしたい姿勢は、市民の皆さまと「ともに前へ」進む市政です。

立場が違えば、意見が異なるのは当たり前です。地方の豊かさを守り続けるには、意見が異なる中で、市民の皆さまの声を聴き、知恵を生かしながら、共に未来をつくることが不可欠です。まちの未来をつくることは、市民と共に語り、悩み、決めていく営みです。誰か一人の力に頼るのではなく、市民一人ひとりの力の結集で、福島全体を強くしていく市政を目指します。

新しい福島市へ向けて、市民の皆様と「ともに前へ」市政を進めてまいります。



地域の課題を話し合いで解決へ

CASE 笹谷地区 交通安全対策

信陵中学校の通学路にもなっている笹谷地区の「市道横堀・石田線」。地域の要望を受け、自治振興協議会において検討を進め、整備工事を実施しました。笹谷地区防犯協会の後藤歩さん、福島市道路保全課の八巻充晴さん、佐藤隼人さんに協議から施工に至るまでの経緯を伺いました。

■町内では普段、どのように意見交換がされていますか？

後藤さん：定期的で開催する町内会の会議で、住民の皆さんの声を伺っています。困りごとなどを共有いただき、笹谷地区防犯協会に取りまとめています。そうした声を整理していく中で、今回の課題が明らかになりました。

■令和5年当時の「市道横堀・石田線」の状況を教えてください。

後藤さん：課題は白線（外側線）が薄くなり、見えにくくなっていることでした。調査では、約8割の白線が十分に機能していない状況。近くにスーパーがあり、交通量も多く、速度が出すぎている車も見られます。高齢の方が多くお住まいで、徒歩で移動する方も多いので、歩道に危険を感じている人が多くいました。

住民だけの解決は難しく、まずは信陵支所へ相談。自治振興協議会の事務局として、関係機関へつないでいただきました。

■協議テーマを受けて行政ではどのような取り組みをされましたか。

道路保全課：まずは道路の状況を現地で確認しました。テーマにも挙げられていた通り、白線が非常に見えにくくなっていることで交通事故の危険性があることが分かりました。対策として検討したのは白線の修繕に加え赤や青などの色で路面を舗装し注意喚起を図る「カラー舗装」。車道と歩道の境目を明確にすることを目的としています。当初は歩道全体をカラー舗装する方針でしたが、予算面を踏まえ、白線よりやや広い幅で舗装する方針に見直しました。その結果、より長い区間を整備することが可能となりました。

■施工後はどのように変わりましたか。

後藤さん：白線は見やすくなり、赤色のカラー舗装の他、減速を促す、「スピード落とせ」の路面標示も新たに設置されました。カラー舗装により、白線の視認性が高まり、「歩きやすくなった」という声も寄せられています。今後、ドライバーの意識向上につながることを願っています。

道路保全課：「白線の劣化」は福島市内各地で多発しており、整備が追いついていない状況です。しかし今回のように、通学路となっている場合などは交通安全対策として早急な対応が求められます。今回の取り組みをモデルケースとし、今後より一層計画的な整備に力を入れていきたいと考えています。



よりよいまちづくりのために

- 町内会などの話し合いから始まります
 - ▶地域の困りごとを話し合い確認し、「地域の声」としてまとめましょう。
- 自治振興協議会事務局(各支所)へ相談を
 - ▶意見をまとめ、写真を添えることで、状況がより具体的に伝わります。

インタビュー
内容の
詳細はこちら▶



令和7年度の協議会の開催

全18箇所
約1,200人が参加



真剣に、そしてにこやかに実施

令和7年度の自治振興協議会は、6月20日の笹谷・大笹生地区から8月29日の清水地区まで、28地区が市内18会場で開催しました。

開始前には各地区ならではのアイスブレイクを行い、和やかな雰囲気の中でスタート。会議では、防災や生活環境、まちづくりに関連する内容など地域の最重要課題である協議テーマを中心に話し合われました。

またフリートークでは、率直な意見交換により、市と地域の考えの共有が行われるなど参加者は真剣に耳を傾けつつも、前向きな対話が印象的な会となりました。

全体の参加回数／18回(うち土曜開催2回、夜間開催1回)

全体の参加人数…1,238人 女性の参加比率…39.42%
協議テーマ件数 ……32件 提案事項 ……2,041件

自治振興協議会の役割

自治振興協議会は、昭和32年に発足した福島市独自の地域広聴制度。地区の課題や提案を聴き、意見の交換を行うことによって、共創による安全で安心して暮らせるまちづくりの推進と、市民と行政とが情報の共有化を図るために開催しています。

会では、地域の町内会などの代表者をはじめ、市議会議員などの有識者、市長を含む市の幹部職員が地域の実情や課題を直接共有します。

市民の声と行政の考え方を伝えることで相互理解を深め、地域課題の解決につなげる対話の場です。

まちの変化や課題について 話し合われました

身近な生活環境がテーマに 【継続的な課題】

自治振興協議会では協議テーマに基づき話し合いが行われます。テーマの多くは市民の安心な生活や暮らしについての課題になります。特に通学路・交差点の交通安全や河川・内水・浸水対策、高齢者の移動などが多くを占めています。

住民だからこそ気づく 「まちの変化」

話し合いの切り口として多いのが、暮らしの中で感じる「まちの変化」です。「新たな団地造成」や「公共施設の閉鎖」、「クマの出没増加」など、ここ一年で表れた変化もあれば、時間をかけて進んできた変化もあります。地域の違和感や不安が、テーマとして共有されています。

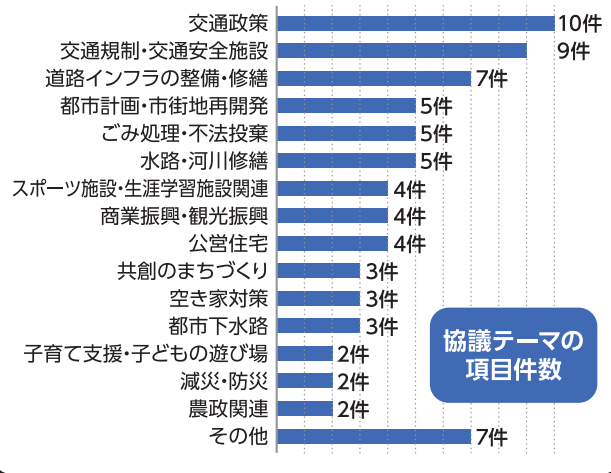
協議テーマの 発掘視点

- 危険と感じる場所は？
 - 通学路・交差点
 - 通行量が増えた道路 など
- 最近困ることが増えた？
 - 冠水・雪の処理
 - 高齢者の移動
 - 交通量の増加 など
- 昔と環境が変わった？
 - 宅地化
 - 交通量の変化
 - 空き地や空き家の増加

令和7年度の協議テーマ



令和7年度は32の協議テーマ、75項目の課題・提言で協議が行われました。福島市からは、寄せられた課題について重要性や緊急性を見極めつつ、関係部署と連携し、既存の計画や基準に基づきながら、解決に向けて検討するなど説明がありました。



● 提案事項 ● 令和7年度は2041件の提案事項が提出

自治振興協議会では、協議テーマの他に提案事項が提出されます。提案事項とは、町内会などの団体から提出された地域のまちづくりに関する提案を地区自治振興協議会でごとにとりまとめたものです。全ての提案に対して、市から対応方針など回答を行います。

分かりやすい提案書のコツ

■ 結論は冒頭に!

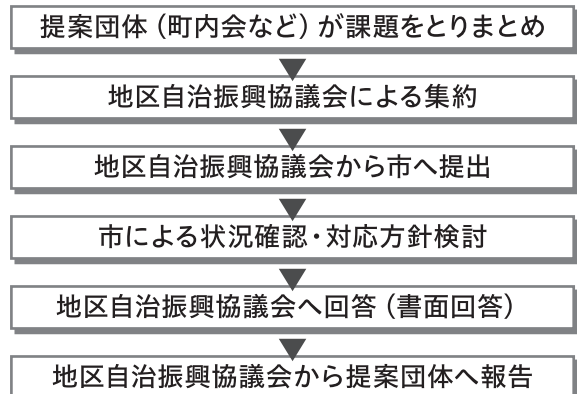
「どこに?なにを?」結論が先だと受理もスムーズです。背景は簡潔に。

■ 写真と同意で迅速に!

提案書に『周辺の方の同意を得ている』の一言や『現場写真』があると◎



提案書の流れ



福島市自治振興協議会連合会の活動

市民の声を束ね市政につなぐ地域連携の要となる組織

自治振興協議会連合会は、市民と行政が一体となり市政の発展と地域の振興、毎年開催される各地区自治振興協議会の連絡調整を図ることを目的として、昭和61年に設立されました。現在、市内28地区の地区自治振興協議会により構成されています。

対話を重ね地域と共に歩んだ一年 令和7年度 総会



総会では、令和6年度の事業報告および収支決算、令和7年度の事業計画と収支予算について審議が行われ、すべて承認されました。

市政研修会や視察研修、県への要望活動などに取り組み、また、延べ2,000件を超える提案が寄せられたと報告されました。

協議会の女性の参加率も高まり、交通安全や防災など身近な課題について、多様な視点から活発な意見交換が行われたことも大きな成果として共有されました。

総会では、対話を大切にしながら、各地区の経験や工夫を共有し、連合会としての連携をさらに深め、地域とともにまちづくりを進めていくことを確認しました。

直接関係機関に要望を届ける

要望活動

国や県が所管する道路や河川の整備について、地域でまとめた声を直接届けるため、関係機関への要望活動を行っています。

市内警察署の担当職員との意見交換では、各地区の具体的な事例をもとに、規制看板や信号機の設置基準などについて現実的な対応を探っています。

行政の枠を越えて対話を重ね、地域の声を着実に形へとつなげていくことが、連合会の重要な役割です。



■ 県北建設事務所での要望活動

今年度の要望内容

地区名	区分	件名
飯坂	継続	国道399号(仮称)飯坂東バイパス整備促進
杉妻・吾妻・信夫	新規	福島市内県管理河川における計画的な維持管理の実施
大波	新規	「県道318号上小国下川原線」の歩行者安全対策
大笹生	新規	主要地方道 上名倉・飯坂・伊達線における歩行者安全対策
中央東	新規	都市計画道路:曾根田町桜木町線の交通規制標識の設置
佐倉	新期	事故防止の交通規制標識設置
瀬上	新規	瀬上町中央付近で交わる県道353号(国見-福島線)と県道155号(飯坂-瀬上線)交差点の事故防止のための改善

■ 大笹生地区(新期)
主要地方道 上名倉・飯坂・伊達線における歩行者安全対策



地区会長

あいさつ

茂庭地区

会長 早坂 繁源



茂庭地区は福島市の最北部に位置し、摺上川沿いに集落が形成されており、上流には市民の水道水や農業用水などの重要な水源である「摺上川ダム」がございす。

「摺上川ダム」の湖水、いわゆる愛称「茂庭っ湖」は四季折々のすばらしい風景を見ることができ、また摺上川ダム近くには、広瀬公園キャンプ場をはじめ広瀬温泉「もにわの湯」や地元産の野菜等を販売する「ふるさと館」、さらには「そば処霧華亭」が隣接し、地域住民の安らぎとなっているだけでなく、多くの皆様に親しんでいただいております。

「摺上川ダム」ができる前から比べると人口が大きく減少し、町内会は8つから3つとなり、また少子化の影響



摺上川ダム



茂庭っ湖

で小中学校が閉校するなど寂しさはございますが、旧茂庭小学校は風力発電の技術者を養成する施設に生まれ変わり、今後の発展に期待しているところであります。

東日本大震災では穴原地区が一時期通行止めとなり、4日間避難所生活したことを含めて大きな影響を及ぼしたことは忘れられない思い出でございますが、その後に発生した地震により、がけ崩れも発生しております。

茂庭地区住民にとって国道399号線は唯一の生活道路で大変重要な路線でございますので、これからも地区住民一丸となり、関係機関と連携を図りながら、適切な維持管理を呼びかけてまいります。

地区会長紹介【地区順・敬称略】

地区名	氏名	備考	地区名	氏名	備考	地区名	氏名	備考
中央東	古関 勝利		余目	遠藤 勝弘	(新)	中野	紺野 篤男	
中央西	江川 純子	連合会副会長	吉井田	片平 純		湯野	齋藤 一哉	
渡利	宮川 千治		荒井	曳地 敏幸	連合会幹事	東湯野	橘内 豊明	連合会幹事
杉妻	渡苅 弘	連合会幹事	佐倉	二階堂 善一		茂庭	早坂 繁源	
蓬菜	加藤 一位		土湯温泉町	陳野原 幸紀	連合会副会長	松川	齋藤 裕	連合会幹事
清水	加藤 勝夫		笹谷	木村 六朗		信夫	佐藤 一夫	(新)
東部	森谷 繁	連合会監事	大笹生	吾妻 雄二	連合会会長	吾妻	齋藤 正明	
大波	加藤 良三		立子山	齋藤 信行		飯野	関 健一	連合会監事
鎌田	大槻 弘	連合会幹事	飯坂	齋藤 静男	連合会幹事		菅野 廣男	連合会顧問
瀬上	瀬戸 邦弘		平野	石渡 栄吉				

令和8年2月28日現在

(新) は前回発行日(令和7年3月末)以降に地区会長に就任された方です。

～長年にわたりありがとうございました～ 令和7年度に地区会長を退任された皆さま

〈余目地区〉末永 弘 様 〈信夫地区〉黒須 義夫 様

ふくしま散歩

地区じちしん紹介

湯野地区

会長
齋藤 一哉



■愛宕山公園清掃

湯野地区は、飯坂温泉の摺上川東岸に位置し摺上川沿いには往時の2分の1、10軒の温泉旅館が並んでいます。温泉を活かし老健施設として再出発した旧旅館もあります。また、3軒の共同浴場があり泉質や温度の特徴を求めて市内外からファンが訪れています。果樹栽培も盛んで、季節毎に良質な果実を実らせています。しかし農家の就労年齢が高く、後継者不足の課題に直面しています。

そのような地区の現状もありますが、自治振として

も住みやすさと地区の賑わいが少しでも取り戻せるよう各種団体と連携し取り組んでいます。湯野地区内関係者が一堂に会する新年顔合わせ会は、コロナ禍で一時中断しましたが、令和6年から感染症対策を講じ規模を縮小し再開して親交を深めています。また、摺上川のきれいな景観を残すとともに、散歩道に活用できるように河畔の一部の除草作業に年2回取り組んでいます。各種団体から協力を得ながら毎回30人前後の参加者により実施しています。他にも湯野地区のシンボルである愛宕山公園の毎月の清掃や地区をあげて開催している敬老会の実施協力等にも取り組んでいます。

地域基盤の整備に関しては、これまで長年にわたり国道399号(仮称)飯坂東バイパスの早期着工の要望を行っており、竣工後のバイパスを活用した湯野地区の発展に大いに期待しているところです。

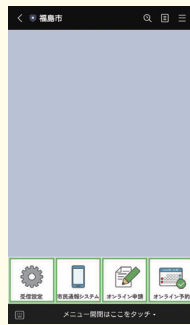


■敬老会

市民通報システム

道路の不具合は『福島市LINE』で通報

「道路の破損」「街路灯が点いていない」など日常の不具合は、市民通報システムからLINEで通報できます。写真と場所を送るだけで担当課へ届きます。緊急時は電話での通報も!



編集後記

「この白線、だれかが声をあげたの?」「道路整備の一環?」と、広報紙を作成し始めてから白線が気になり、つい考えてしまいます。そのような痕跡を感じると、いつものまちが少し変わって見える気がします。

少しリニューアルした広報紙。「自治振?知らない。」という方にも、役割が少しでも伝わればうれしいです!(阿部)

自治振の役割編



役割がわかれば、もっと届く。

【編集・発行】福島市自治振興協議会連合会

【事務局】福島市政策調整部 地域共創課内

〒960-8601 福島市五老内町3番1号 TEL.024-525-3731